

a 学校教育目標	「自ら伸びる」児童の育成 ～わくわく登校、満足下校～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 自分を愛し、夢を語る児童の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 夢や目標に向かって、自ら伸びようとする児童を育成する学校 【育成を目指す資質・能力】○知識及び技能 ○思考力・表現力 ○主体性
----------	-------------------------------	----------------------	---

評価計画				自己評価				改善方針		学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	達成率	評価	改善方針	評価					
					目標達成	目標達成				イ	ロ	ハ			
確かな学力の育成	主体的に学びあう児童を育成する。	○児童自らが目標や課題を設定して、その実現や解決に向け主体的に取り組む能力や意欲・態度を育成する。	児童質問紙肯定的評価の割合 ①「友達の考えと同じところや違うところを比べながら自分の考えを発表した。」 ②「図や表、数直線図などを使って、友達に伝えるように自分の考えを説明している。」 ③「友達の意見を聞いて、自分の考えが深まったり確信がもてたりした。」	80%	① 80.7% ② 85.8% ③ 96.5%	① 84.4% ② 91.3% ③ 96.6%	113%	A	児童アンケートの肯定的評価は、①84.4%、②91.3%、③96.6%。全ての項目で目標を達成することができた。上半期で改善に挙げた日々の授業からの意識化、教師の価値付けを行うとともに、公開研究会に向けて、指導案検討やシミュレーションを複数回実施し、職員間で意識統一をして指導したことが、児童の習慣化につながったと考える。	学力向上を図るために、以下のことに取り組む。 ①1時間の授業の充実と課題の分析や対策を丁寧に行い、児童の実態に合った授業の工夫を一層図る。 ②授業改善を強化し、算数科で培ってきた思考力・表現力の育成を他教科で活用していくことを目指す。	7	0	0	・学力向上に向けて継続した様々な取組がされており、教職員のみならずの努力に敬意を表します。 ・高い目標ではなく達成できそうな目標を立て、その積み重ねで自信を付け意欲を引き出しています。 ・休憩時間等に管理職が計算カードを聞くこととありますが休憩時間は勉強の事を忘れることも大事だと思います。メリハリをつけた学校生活でストレスのないよう願っています。 ・問いの探求・解決をテーマに日常的に意識化して取り組まれた事が授業参観や児童のアンケートの結果からわかった。	
			○各種学力調査に向けた対策や、算数科の思考力・判断力・表現力のテストの分析を通して、学力の向上を図る。	①標準学力調査 全学級全国平均値以上(1～3年は+5P、4～6年は+3P) ②単元末テスト 思考力・判断力・表現力等 学年平均通過率 80%以上	①1～3年 +5P 4～6年 +3P ②80%以上	①未実施 ②50% ③3/6	①83% ②83% ③5/6	83%	B	①(1)(2)について目標に設定していた全国平均値以上、低+5、高+3を達成できた学年は6学年中5学年(83%)だった。昨年度、課題が見られた高学年が3学年とも全国平均値以上で+3を達成することができた。 ②(1)については、2学期の算数科の思考力・判断力・表現力等の単元末テストの学年平均が80%以上の学年は、6学年中5学年(83%)だった。下学年、学校全体で基礎学力の徹底、適用問題の取組を図ったことが結果につながったと考える。	児童の思考力・表現力をつけるために、以下のことに取り組む。 ①NRT、標準学力調査、全国学力・学習状況調査に向けて、スケジュールを細かく立て、既習内容の学習を復習できるアシストシートで練習問題に取り組ませる。今後も進捗状況を確認しながら継続を図る。 ②休憩時間や給食配膳中、ほぼ毎日、管理職が計算カードを聞くなど四則計算の徹底を図り、モジュールには計画的に複数職員で対応したりするなど、学校組織で基礎学力の定着を継続する。 ③標準学力調査の結果を踏まえて、課題の見られた単元や問題において、補充や解き直しを行い、定着を図るまで繰り返し行う。	7	0	0	・基礎学力定着のため、管理職や複数職員で取組まれ、素晴らしい。是非来年度も継続してほしい。 ・自己肯定感が高まっていると、由、子供の成長に最も大切なこと。さらに高める努力を期待します。 ・思考力・表現力向上にむけて、公開研究会での授業の様子からも、授業の中で力を付けられていることが分かりました。本日の授業参観からも丁寧に授業されていたことが分かりました。 ・すべての項目で目標達成されたことは素晴らしい取組だと思います。学校組織として具体的な手立てを立てて全教職員で学力の向上に向け取り組まれていることが分かりました。これからも日々の授業を大切に子供達に力をつけてください。
豊かな心・健やかな体の育成	○様々な人や事象との関わり合いを通して、豊かな人間性と健やかな体を培う。	○全校外遊びや授業でのACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)を励行するとともに、体育的な特別活動を工夫して行う。	児童質問紙肯定的評価 (1)「自分のことが好き。」 (2)「自分には相談できる人や助けしてくれる人がいる。」	90%	(1)78.3% (2)96.1% 平均 87.2%	(1)82.7% (2)97.1% 平均 90%	100.0%	A	(1)(2)共に上半期より向上している。一方で、3年生がどちらの項目も上半期より低下している。今年は、学び合いを研究していることもあり、休憩時間だけでなく授業の中でも友達と関わる機会が増えたことも要因であると考えられる。	児童の自己肯定感を高めるために、以下の事に取り組む。 ①学級活動や道徳等で、自他の良さを見つけ合う活動・学習を仕組み、継続的に取り組む。 ②学級平均ではなく、個に焦点を当て、友達の良いところを見つけ合う活動を取り入れることで、自分の良さに気付けるようにする。	7	0	0	・地域での取組を児童が話し合いによって決定し進めていることを高く評価します。 ・豊かな心、健やかな体の育成には学校だけでなく、家庭での取組が欠かせないと思います。保護者との連携をさらに進めてください。 ・高学年は思春期に入る時期なので難しい課題だと思います。友達の良いところを見つけ合うのは良いことだと思います。人に認めてもらうことで自信がつくと思います。 ・コロナ禍以来なのか地域との関わりが少なくなっているように感じます。地域の人も子供が少なくなり子供にまつわる行事もなくなり、さみしく思っています。学校発信で何か考えてもらえれば幸いです。 ・沼田西町のために各学年話し合い有意義な取組をされ、地域住民はたいへんうれい。子供達も達成感でより自己有用感を感じたと思う。来年度も期待している。 ・様々な場面で様々な運動に取り組まれているので、子供達は楽しみながら体を動かす、運動好きが増えていく。年間を通して取り組むことで更なる体力の向上を望む。 ・経験で得られる知識も大切であるが、未知の体験は「読書」が重要。図書活動をさらに拡充させてほしい。 ・地域を愛する活動、とても良い活動だと思います。人が人として生きるうえで、とても大事な関係性です。 ・自己肯定感は一朝一夕には向上しません。取組の成果が出たためだと思います。 ・沼田西町のためになるという視点は大切だと思います。 ・「体を動かすことが好き」が93.3%の達成は大変意味のあることだと思います。 ・子供達がどうしたら地域に貢献できるか自ら考え行動しているのが素晴らしい。先生方が子供達をそういう方向に導いているのがさらに素晴らしい。 ・学校での取組をヒントに家庭で出来る事を考えないといけないと思います。 ・「自分のことが好き」「自分には相談できる人や助けしてくれる人がいる」という質問項目が90%という数値であったことはすべての教育活動に影響していると思います。「自分のことが好き」という土台があってこそ力が発揮されると思います。これからも地域とのかかわりを大切にして子供の心の育成をお願いします。 ・「町内のごみ拾い」6年生ありがとうございました。自分に関わることができることはないか、自分達で考え計画を立て実行する素晴らしい取組を教えてくださいました。主体的な6年生の姿に感動しました。	
			○友達や故郷を愛する心情を育てる。	児童質問紙肯定的評価 (1)「沼田西町のためになることをやってみよう。」	90%	83.1%	92%	102.1%	A	「どんなことをしたら沼田西町のためになるのか」を各学級で話し合い、総合的な学習の時間を中心に取り組んだ。例えば、6年生は地域清掃、4年生は老人介護施設の方との交流に取り組んだ。その結果、地域の方から感謝されたり、「やってよかった。」といった自己有用感を感じたりすることができた。と考える。	地域への貢献を認識させるために、以下の事に取り組む。 ①生活科や総合的な学習の時間の中に地域学習では、来年度に向けて学習内容を見直し、相手意識や目的意識を明確にして取り組めるようにする。 ②学習内容を見直し際、地域の実態を確実に把握した上で、地域の教材を活かしたり、地域に反映させたりできる取組を、教職員間で協議し、実行していく。	7	0	0	・高学年は思春期に入る時期なので難しい課題だと思います。友達の良いところを見つけ合うのは良いことだと思います。人に認めてもらうことで自信がつくと思います。 ・コロナ禍以来なのか地域との関わりが少なくなっているように感じます。地域の人も子供が少なくなり子供にまつわる行事もなくなり、さみしく思っています。学校発信で何か考えてもらえれば幸いです。 ・沼田西町のために各学年話し合い有意義な取組をされ、地域住民はたいへんうれい。子供達も達成感でより自己有用感を感じたと思う。来年度も期待している。 ・様々な場面で様々な運動に取り組まれているので、子供達は楽しみながら体を動かす、運動好きが増えていく。年間を通して取り組むことで更なる体力の向上を望む。 ・経験で得られる知識も大切であるが、未知の体験は「読書」が重要。図書活動をさらに拡充させてほしい。 ・地域を愛する活動、とても良い活動だと思います。人が人として生きるうえで、とても大事な関係性です。 ・自己肯定感は一朝一夕には向上しません。取組の成果が出たためだと思います。 ・沼田西町のためになるという視点は大切だと思います。 ・「体を動かすことが好き」が93.3%の達成は大変意味のあることだと思います。 ・子供達がどうしたら地域に貢献できるか自ら考え行動しているのが素晴らしい。先生方が子供達をそういう方向に導いているのがさらに素晴らしい。 ・学校での取組をヒントに家庭で出来る事を考えないといけないと思います。 ・「自分のことが好き」「自分には相談できる人や助けしてくれる人がいる」という質問項目が90%という数値であったことはすべての教育活動に影響していると思います。「自分のことが好き」という土台があってこそ力が発揮されると思います。これからも地域とのかかわりを大切にして子供の心の育成をお願いします。 ・「町内のごみ拾い」6年生ありがとうございました。自分に関わることができることはないか、自分達で考え計画を立て実行する素晴らしい取組を教えてくださいました。主体的な6年生の姿に感動しました。
			○健康で活力ある生活を送るための基礎を培う。	体力測定「50m走」「立幅跳び」「長座体前屈」の種目で、4月測定時よりそれぞれ0.3秒、5cm、3cm上昇した児童の割合	① 80% ② 100%	① 94.7% ② 53.3%	① 93.3% ② 61.5%	① 116.6% ② 61.5% 平均 89.5%	B	①「体を動かすこと(運動)が好きである。」の児童アンケート項目では、肯定的に評価した児童の割合は93.3%であり目標値である80%を上回った。毎月2回のロング昼休時に、体育委員会が主体進める縦割り班での「ハの字チャレンジ」に継続して取り組んだり、各学年ごとに計画的に定期的な学級遊びに取り組んだりしたことが要因だと考える。また、②については、12月の身体測定の結果、肥満傾向にある児童は13人で、目標に達しなかった。前回9月の測定結果と比較すると、肥満傾向にある児童が減少していたことから、2学期間の取組に一定の効果があったと考えられるが、課題改善には家庭での食生活や運動習慣の影響が大きいことも明らかにした。	来年度は、体力向上の指標を「50m走、ソフトボール投げ、反復横跳び」とし、以下の点に取り組む。 ①朝の会や帰りの会の「アクティブタイム」の導入 ②各学級で「布を用いた投擲練習」「サイドステップ」「切り返し(腿上げ)」などに、1分間程度毎日取り組む。 ③週末プラス1(運動の宿題)の継続 ④週末にも位置付けて取り組んできた運動の宿題に継続して取り組み、体力の向上を目指す。 ⑤遊びを通じた動きの向上 おにごっこやドッジボールなどの遊びを推進し、「走る、投げ、蹴る、細かい加速・減速、方向転換」といった動きの向上を図る。 ⑥陸上講師の招聘 陸上講師を招聘し、よりよい走り方を学ぶことで、体力の向上を図る。	7	0	0	・高学年は思春期に入る時期なので難しい課題だと思います。友達の良いところを見つけ合うのは良いことだと思います。人に認めてもらうことで自信がつくと思います。 ・コロナ禍以来なのか地域との関わりが少なくなっているように感じます。地域の人も子供が少なくなり子供にまつわる行事もなくなり、さみしく思っています。学校発信で何か考えてもらえれば幸いです。 ・沼田西町のために各学年話し合い有意義な取組をされ、地域住民はたいへんうれい。子供達も達成感でより自己有用感を感じたと思う。来年度も期待している。 ・様々な場面で様々な運動に取り組まれているので、子供達は楽しみながら体を動かす、運動好きが増えていく。年間を通して取り組むことで更なる体力の向上を望む。 ・経験で得られる知識も大切であるが、未知の体験は「読書」が重要。図書活動をさらに拡充させてほしい。 ・地域を愛する活動、とても良い活動だと思います。人が人として生きるうえで、とても大事な関係性です。 ・自己肯定感は一朝一夕には向上しません。取組の成果が出たためだと思います。 ・沼田西町のためになるという視点は大切だと思います。 ・「体を動かすことが好き」が93.3%の達成は大変意味のあることだと思います。 ・子供達がどうしたら地域に貢献できるか自ら考え行動しているのが素晴らしい。先生方が子供達をそういう方向に導いているのがさらに素晴らしい。 ・学校での取組をヒントに家庭で出来る事を考えないといけないと思います。 ・「自分のことが好き」「自分には相談できる人や助けしてくれる人がいる」という質問項目が90%という数値であったことはすべての教育活動に影響していると思います。「自分のことが好き」という土台があってこそ力が発揮されると思います。これからも地域とのかかわりを大切にして子供の心の育成をお願いします。 ・「町内のごみ拾い」6年生ありがとうございました。自分に関わることができることはないか、自分達で考え計画を立て実行する素晴らしい取組を教えてくださいました。主体的な6年生の姿に感動しました。
信頼される学校	信頼される学校	○意識向上を図り、自分事として考える研修の実施	不祥事0(ゼロ)	100%	100%	92%	96%	B	○10月はA評価(100%)であった2つの項目に関して、2月はB評価(92%・90%)であった。 ・不祥事が1件あった。(交通事故) ・自分事として考える研修の取組は定着しているが、防ぎきれないこともある。予防の視点と共に、起こった後の適切な対応がどの職員もとれるように研修の中で意識を高めていく必要がある。 ・各主任が自覚をもち協働的な学校運営に取り組んでいるものの、職員1人1人が意識を高めて個人のスキルアップが必要である。 ・働き方に対する教職員の意識は高まり、在校時間は確実に減少している。	①不祥事防止に関わって、研修の充実はもちろんのこと、校内で作成したチェックリストを使ったり、常に意識できるよう、防止のためのチラシなどを掲示したりしていく。 ②業務の効率化に関わって、情報の共有と見直しをもった取組は欠かせない。業務内容の優先順位、ICT等を使用した視覚化・効率化などの視点から働き方改革を進めていく。また、多様な業務を効率よく進めていくためには、職員のスキルアップが関わってくる。主任層が経験年数の浅い職員へお手本を示したり、研修への積極的な参加を促したりしていく。 ③日頃のストレスの有無、健康状態などお互いに声をかけあえる相談しやすい環境を整え、同僚性を育むことで、職員の心と体の健康管理に充分注意していく。	7	0	0	・信頼される学校づくりを進めておられることがよく分かりました。 ・教職員のみならずは健康管理に充分留意していただき、先日の給食時にウズラの卵による悲劇。先生方の心労を考えると日頃からの訓練も大事なのではと考えます。 ・先生方が意欲を持ち、熱心に仕事をされている。お互いに声をかけ合い、健康に気をつけて仕事をしてください。 ・学校方針に基づいて教職員の方々が一致団結して取り組んでおられる。心身ともに余裕をもっていただき、働き方改革の推進が進んでいることからも(45時間以内)、校内がうまく回っていることが分かりました。 ・教職員全員が不祥事防止について意識を高め、スキルアップをしていってください。	

【:自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【:学校関係者評価 評価】
イ:自己評価は適正である。
ロ:自己評価は適正でない。
ハ:分からない。